

#### 4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成29年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

##### (1) 語彙力（【1】発音・文強勢問題 正答率64.5% 【2】語彙問題 正答率64.5%）

ア 短い英文中の語の発音で、thousand, thirteen の下線部の発音 [θ] はよくできているが、[æ] や [ʌ] といった母音の発音の区別ができていない。また、発話や応答において、強勢を置いて伝えるべき情報のうち疑問詞の内容はおおむねよく意識できている。

イ 【2】語彙問題は、選択式問題の正答率が高いのに対して、記述式問題において、文脈や対話の内容に応じて、適切な語彙（problem, different など）を用いることができていない。つづりの誤りよりも、別の語を解答する誤答や無答が多いという傾向が見られた。

##### (2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率74.3% 【4】文法・表現問題 正答率70.1%）

ア 【3】文法・語法問題は、全大問の中で最も正答率が高く、特に疑問詞 which や現在分詞の後置修飾の用法はよく定着している。

イ 【4】文法・表現問題も正答率が高く、対話の内容に応じて、文法の知識を活用することはおおむねよくできている。特に、助動詞 must や疑問詞+ to 不定詞の用法はよく定着している。

##### (3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率55.2%）

会話の展開を理解した上で、やり取りの流れに応じて適切な表現を用いることができない。

##### (4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率40.0%）

It is ~ for 人 to 不定詞の構文を用いた表現はよく定着しているが、接触節や間接疑問を用いた表現に誤りが多い。冠詞を適切に用いて表現できない誤答も多く見られた。

##### (5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率61.6%）

登場人物の発言や行動を整理しながら、物語の展開を正確に捉えることができていない。

##### (6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率72.5%）

会話の概要はよく理解できているが、必要な情報を関連付けることができていない。